

経営理念	【保育目標】 みつけたよ 自分らしさとおもしろさ しぜんともだち 佐古キッズ 【経営目標】 『主体者としての心を育み、自己肯定感や人への信頼感を身につけていく保育の在り方をめざす』 〈子ども像〉 健康でたくましい子ども。やさしく思いやりのある子ども。自分で考え話しが聞ける子ども。なかよく協力する子ども。 〈保育所像〉 子どもの最善の利益を考慮し、健全な心身の育成のための「子どもにふさわしい生活の場」として、環境を通して養護と教育を一体的に行う保育所 保護者の子育てを支援する保育所 〈保育士像〉 子どもを見る目を豊かにしよう 子どもの最善の利益に立とう 仲間と創造し協働しよう 保護者と共に育とう育てよう
------	---

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		保育所関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
充実した保育内容	○ 遊びの充実のための子ども理解	① 子どもが、自ら遊びたくなる環境の構成ができていたか	年齢に応じて子どもの興味や関心と保育者の願いや育てたい方向性を意識し環境構成を行ってきた。カリキュラム会を通じて園庭の使い方や時期や季節に応じた物の数や場の設定など、子どもたちが自ら選んで遊べる環境づくりに努めた。室内外の整理整頓など美しい環境構成も実践することができた。	B	季節に応じて、子どもの年齢や発達に応じた遊びの環境が用意されており、子どもが興味や感心をもって主体的に遊ぶ姿が見られている。泥団子づくりや泡遊びなど保育所でしかない友達との体験ができています。	A	引き続き各年齢に応じた環境構成について伝え合い共有していく。保育の中で使う素材やその季節に応じた玩具や自然物を準備するなど、職員全体の知識を深めながらより良い環境構成に活かしていく。
		② 一人一人の子どもの特性や発達を理解し、援助する実践ができていたか	一人一人の子どもの多面的に理解し、肯定的に受け止める事を意識し、日々実践してきた。支援の必要な子どもには、研修等で得た知識や専門機関からのアドバイスなどを基により良い支援方法を探りながら実践に活かすことができた。低年齢の子どもの行動理解の難しさは課題である。	B	一人一人の子どもの多面的に理解し、個々に応じた援助を、今後も引き続き取り組みを実践してほしい。	B	一人一人の子どもの発達や特性の理解に努め、子どもの育ちについての見通しをもちながら、一人一人の個人差に応じた関わりを実践していく。低年齢の子どもについては、専門機関との連携を深めていく。
		③ 自分の思いを表現し、伝わる喜びを感じられるような保育の実践ができていたか	年齢に応じ、子どもの思いに共感的に寄り添うことを意識し、その子なりの表現を受け止め、関わる実践を積み重ねることができた。子どもが安心して自分の気持ちを表現したり自信をもって発言するなどの姿が増えてきた。	B	年齢に応じて、自分の思いを伝えようとする姿を大切にしたり、一人一人に丁寧な関わりができていていると感じる。	B	乳幼児期に人と関わる力の基礎が育っていく事を意識しながら、日々の保育の中で一人一人の思いを受容し、応答的な関わりを心掛け援助していく。
適正な保育運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制作り	① クラスに関わる職員と保育を伝え合い、保育が繋がるための実践を行うことができていたか	早朝・延長保育の職員間で子どもたちの姿を共有するために、報告・連絡・相談することを意識して取り組む事ができた。様々な勤務形態がありじっくりと話し合う時間を作るのが難しい面もあったが共有ノートを活用したり些細な事でも口頭での伝え合いを大切に同じ方向性をもって子ども理解に努めた。	B	勤務形態が異なる中での情報共有は、できる限りの対応ができていると思う。	A	引き続き、共有ノートや口頭での伝え合いを行い職員同士の連携が確実となるように意識して取り組んでいく。
		② 職務環境の見直しを図り、生き生きと働ける職場環境づくりに取り組めたか	仕事の優先順位を考え、計画的に事務を期限内に行うことを心掛け業務にあたることができた。職員同士互いに声を掛け合い協力したり、話し合い等も時間を決めて効率よく行うことを意識し実践することができた。学年によっては、書類作成等に時間を要することがあった。	B	コロナ禍で、様々な制約がある中での日々の業務は大変だったことと推測される。分析・考察においても少しでも改善点が書かれているので評価できる。	B	職員一人一人が生き生きと働ける環境を整え、事務仕事の効率化を考え、職員一人一人が計画的に実践できるように、今後とも引き続き取り組んでいく。
信頼される保育所	○ 保護者や地域に親しまれる保育所作り	① 保護者への保育所での子どもの姿や成長を伝え、保育説明を適切に行ったか	コロナ禍で行事の延期や中止があり、日々の子どもの様子を月1, 2回程度、学年・クラス便り等で保護者に伝える事ができた。また、連絡帳に写真を貼ったり、個々の育ちを保育者に分かりやすく伝える工夫をした。子どもの成長を保護者と共に喜ぶことができた。	A	取組指標結果や成果指標結果も高いが、何よりも保護者アンケートでの肯定評価が高いので日頃の実践が成果に繋がっていると感じる。	A	保護者の子育ての喜びに繋がるように、写真やイラストを用い、見やすく伝わりやすい学年便りやドキュメントの作成等を継続して行い、子どもの成長や保育のねらいや内容について発信していく。
		② 保護者との信頼関係を大事にし、子育てに関する相談や援助に努めたか	毎日の送迎時や連絡帳などで保護者の不安や悩みに共感することを大切にしていた。毎日会える保護者、めったに会えない保護者もいるため、保護者の状況に応じて、電話や個別に面談の日を設けたりするなど少しでも保護者の思いを理解できる機会を作るようにしてきたが十分でなかった。	B	全職員が、毎日気持ちよく挨拶をしてくれ話しやすい雰囲気がある。連絡帳でも子どもの様子をしっかりと伝えてくれ、忙しい中でも時間を作り保護者と向き合ってくれていて感謝している。	B	保護者とのコミュニケーションを大切に、子育ての不安や悩みに寄り添い、全職員で役割分担をしながら対応し、保護者の安心に繋がるように努力する。